



学校だより

「体をきたえる子」・「思いやりのある子」・「最後までやり抜く子」・「進んで学習する子」

令和8年1月8日

江戸川区立清新第一小学校

江戸川区清新町1-4-19

校長 金木 圭一

NO.9

平和な社会をめざし、力強く歩む一年に

校長 金木 圭一

保護者・地域の皆様におかれましては、清々しい新年をお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。昨年中は、本校の教育活動に対し、温かいご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

令和8年は午年です。馬は、古くから人々の生活を支え、共に歩んできた動物であり、力強さや前進する姿が象徴とされています。午年には「勢いよく進む」「努力が実を結ぶ」といった意味があるとも言われています。新しい年の始まりにあたり、子供たち一人一人が、自分の目標を見付け、前向きに挑戦していく1年になってほしいと願っています。

さて、昨年を振り返りますと、世界的に異常気象が多発し、熱波、洪水、山火事が発生し、甚大な被害を受けた地域がありました。日本国内においても各地での山火事や青森県東方沖地震、8月の大震や台風12号による広範囲な被害などがあり、年末年始も避難を余儀なくされている方がいらっしゃいます。心が痛みます。少しでも早い復興を願うばかりです。一方、世界では、国と国、人と人が争い、被害を受けているような状況も続いています。そのような時代だからこそ、平和な社会とは何か、自分にできることは何かを考えることが、私たち大人にも子どもたちにも求められているのではないかでしょうか。平和は、決して遠い国の出来事ではなく、私たちの身近な生活の中から生まれるものだと思います。

学校生活の中には、平和につながる学びが数多くあります。友達の意見に耳を傾けること、考え方の違いを認め合うこと、相手の立場に立って行動すること。時にはうまくいかないこともあります、そうした経験を重ねながら、子どもたちは人と関わる力を身に付けていきます。その積み重ねこそが、将来の平和な社会を支える土台になると考えています。

本年2月6日から、「ミラノ・コルティナ2026冬季オリンピック」が開催されます。オリンピックは、平和の祭典の意義をもち、オリンピズムを広めるためであり、スポーツを通じて人類の調和的な成長を促進し、平和な世界を実現することを目指して開催されています。オリンピズムとは、オリンピック憲章のオリンピズムの根本原則によりますと、「肉体と意志と精神のすべての資質を高め、バランスよく結合させる生き方の哲学である。オリンピズムはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探求するものである。その生き方は努力する喜び、良い模範であることの教育的価値、社会的な責任、さらに普遍的で根本的な倫理規範の尊重を基盤とする。」とされています。また、オリンピズムの目的は、「人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会の推進を目指すために、人類の調和のとれた発展にスポーツを役立てることである。」と示されています。このことは、オリンピアンやオリンピックを目指すアスリートでなくても、私たちに平和な世界を実現するために、どのように生きていくのか、生きていくのに大切なことは何か、そこで果たすべき責任とは何かなど、一人一人が現在と将来を見つめて考え、行動していくことを教えてくれているのではないでしょうか。運動やスポーツは「する」だけでなく「みること」、「支えること」、「知ること」など、自己の適性等に応じて、多様な関わり方があります。平和の祭典であるオリンピックを「みる」だけでなく、その意義について「知る」機会になってほしいと思います。また、日本とミラノの時差を考えると、競技は日本時間の夕方から翌朝になり、子供たちにとって、「みる」時間は限られていると思います。しかし、報道により、様々な種目や出場選手の活躍などが取り上げられることを「みる」、「知ること」は、子供たちの「やってみたい」、「関わってみたい」、「もっと知りたい」などの思いを膨らませ、将来に向けた選択肢を増やすこともあります。互いを認め、尊重し、思いやりの心を育みながら成長して欲しいと願っています。

今年度も残り3か月となります。教職員一同、力を合わせて、子供たちの成長に力を尽くしてまいります。本校の教育活動への引き継ぎのご理解、ご協力をよろしくお願ひいたします。